

1、教育目標

自ら学び、心豊かに育ち合う子どもを育てる

〈目指す子ども像〉

- ・ 学びを深める子
- ・ 互いに認め合い、助け合う子
- ・ 自信を持ち、自分たちで最後までやりぬく子
- ・ 体を鍛え、元気で明るい子

2、研究主題

自分の思いを伝え、高め合う授業づくりを目指して

3、研究内容

- ①つけたい力を明確にした授業
- ②学び合う場面を大切にした授業
- ③電子黒板等、教育機器を有効に活用した授業

4、研究領域

全領域（国語・算数）

5、研究内容と領域について

平成16年度より4年間研究主題を

「確かな学力を身につけ、自ら学び、実践できる子どもの育成」

とし、研究内容を

「思考力を高めるための手立てを探る」

として研究に取り組んできた。

研究が進むにしたがい、思考力をどのようにとらえ、思考力が高まった子どもとはどんな姿なのかについて教員同士の共通理解を図る必要性があること、またその姿に迫るためにどのような手立てを大切にすべきなのかなどの課題もでてきた。そして、

思考力とは・・・ある事実から連想したり創造したりする力、事実と事実を関連付けてとらえる力、概念を形成する力、推理する力

ととらえ、富洲原小学校での目指す思考力の高まった子ども像を

課題に対して進んで自分なりの考えを持ち、工夫しながら解決していこうとする子。友達と意見交換をしたり、課題が解決できたりした経験を通して、考えることが楽しいと感ぜられる子。

と確認した。

さらに、20年度からの3年間は、4年間の研修内容で得られた成果を元に、児童の実態に即

して研究主題に迫りたいと考えた。そして、現在の児童の姿からつけていきたい力を焦点化するためにも、研究内容を

自分の思いを伝え、高め合う授業をめざしてに、

思考力が高まった子ども像をより具体化して以下のようにした。

課題に対して進んで自分なりの考えを持ち、工夫しながら解決していこうとする子。友達と意見交換をしたり、課題が解決できたりした経験を通して、**友達の意見を聴くことや自分の思いを伝えることが楽しいと感じられる子。**

また、子どもの思考の高まる学習活動を次のように設定した。

- ①課題に出会いじっくり考える。
- ②自分なりの思いや考えをもつ。
- ③気持ちや思いを伝え合う。
- ④自分の考えを改めてまとめる。

そして、研修を進めるに当たり大切にしていきたいテーマを4つ設定して取り組んできた。

- 1 「考える過程を大切にしたい授業の組み方」として、児童が考えを高め合うことができるための単元のながれ、1時間の授業の組み方、課題設定の仕方など。
- 2 「考えを持たせる方法」として、国語は視写、書き込みなど、算数は算数的活動の重視、一人学習ができない児童への手立て。
- 3 「自分の思いを伝えることが楽しい、また伝えてみたいと思える授業の進め方」として、考えを発表させるだけでなく意見のすり合わせをする活動のさせ方、教師の出場、低学力の児童も自分の考えを広げられる授業の持ち方、読んだり発表したりする機会の設定、しっかり聴く態度の育成。
- 4 「検証の仕方」として、どの意見、どの発問、どの活動がきっかけで考えが変化していったのかの見極め、その児童なりの考えが出せればよいというわけではないので、教師自身が評価をしっかり持つ。また、子どもたちにつけたい力を明確にし、1時間の授業の中で、子どもたちに力がついたかどうかの評価方法を探る。

23年度は、基本的には今までの研修の流れを引き継いで研修を進めていくが、取り組みがより具体的になるように研修主題・研究内容を少し変えた。伝え合う力が弱いという子どもの実態から、今までの研究内容であった「自分の思いを伝え、高め合う」ということをクローズアップさせて研修主題を次のようにした。

「自分の思いを伝え、高め合う授業づくりを目指して」

そして、研究内容は目指す授業のより具体的な場面がわかるように次の3つを設定した。

- ①つけたい力を明確にした授業
- ②学び合う場面を大切にしたい授業
- ③電子黒板等、教育機器を有効に活用した授業

3つの内容の授業づくりを通して主題に迫っていききたい。

また、年度末のまとめで「つけたい力を明確にした授業」については、指導案につけたい力やそのための手だてが十分に表されていない等の課題が確認された。そして、「伝え合い、高め合う」ということについて子どもから見て学び合う活動が楽しいと実感できる授業づくりと子どもの側から見た検証の必要性も指摘された。今年度は、新指導要領による学習が始まる。もう一度各教科の基礎・基本とは何かを確認し、つけたい力とその手立てを設定し検証することによって研修を進めていきたい。

6、学年部目標

卒業時に目指す子ども像に少しでも近づいているようにしたい。そこで学年部ごとに目標をたてていきたい。この目標を常に意識し、日々の授業を組んでいくこととする。各学年で実際に研究していくときは、国語や算数の教科ごとあるいは単元ごとに、子どもの実態をふまえながらより具体的な目標を立てていくこととする。

<学年部目標>

低学年……自分の考えをもち、進んで話そうとすることができる。

中学年……自分の考えが相手に伝わるようにはっきり話し、相手の考えを聞いて、自分の考えとの相違に気づくことができる。

高学年……自分の考えと相手の考えとの相違を意識しながら話し合い、考えを深めることができる。

7、研究の進め方

(1) 研修委員会

- ・校内研修や学びの一体化に関することは全てこの会で提案・立案する。
- ・学びの一体化は研修副委員長が中心となって推進していく。
- ・人権・同和教育推進委員は研修委員で構成する。
- ・学びの一体化ワーキンググループメンバーは研修委員で構成する。
- ・校長、教頭、研修委員長、研修副委員長をはじめ、読み部会・書き部会・計算部会の各長、養護、生指部長は学びの一体化ワーキンググループメンバーの代表として校区内ワーキンググループ会議に参加する。
- ・三部会（読み・書き・計算部会）をもつときにはそれぞれの部長が中心になって推進していく。

(2) 学年会

- ・学年研究を母体とする。
- ・なかよし学級担任および専科は各学年に所属し、学年会にも参加する。
- ・なかよし学級単独でも研究を進めていく。
- ・学年研究は国語・算数の教科を窓口にして研究を深める。国語の説明文や算数の数と計算領域などのあまり提案授業が行われていない単元にも取り組む。
- ・各学期に国語と算数の重点単元をきめて取り組む。
- ・各学年で全員が読み・書き・計算部会に分かれて所属しそれぞれが学年で推進していく中心になる。

(3) 3部会

- ・学期に1～2回の割合で開くが、必要に応じて臨時に開くこともある。

(4) 研究授業

- ・全員が公開する（授業を大切に）。
- ・全体提案授業は、各学年1本、なかよし学級1本とする。他は学年提案とする。
- ・全体提案授業は、国語と算数の両方なるべく行うようにする。また、1本は人権・同和教育に視点を当てた授業を行う。（23年度は中学年）
- ・学年提案授業の中で、必ず人権・同和教育の観点からの授業を入れる。ただし、人権・同和教育に視点を当てた全体提案授業をした学年は、国語、算数の学年研究授業とする。
- ・専科は研究内容や人権・同和教育の観点で担当の授業をする。
- ・全体提案授業の日は下記のようにする。（2学期に4学年のなることもある）

1学期…なかよし学級と2つの学年 2学期…3つの学年 3学期…1つの学年

- ・提案授業が集中しないようにするため、各学期の初めには授業日を決定する。
- ・(学年提案授業でも指導主事にご指導をお願いすることは可能である。) 人権・同和教育の観点の授業は昨年通り、全て指導主事に来て頂く。
- ・全体提案授業の指導案は、5日ほど前までに指導主事に送る。(保存用に全ての指導案と事後研の記録を職員室のファイルに綴じる。学年研も同様にする。)
- ・全体提案授業の6限の日は、B日課とする。
- ・全体提案授業は全員が参観する。学年提案授業は、校長と教頭、および同学年は必ず参観し、他の者は自由参観とする。

研修委員会 人権・同和教育推進委員会 学びの一体化校内ワーキンググループ	
・ 校長(指導・助言)	…大川
・ 教頭(指導・助言)	…金山
・ 研修委員長(提案・研究紀要)	…下方
・ 研修副委員長(学びの一体化実務担当)	…武内
・ 人権・同和教育推進委員長	…萩
・ 読み部会部長	…伊藤千
・ 書き部会	…小林
・ 計算部会	…竹川
・ 初任者研修担当	…新貝
・ 研修案内	…伊藤千
・ 学習環境推進委員長	…小林
・ 特別支援コーディネーター	…(植松)
・ 職員図書	…矢野
・ Q U	…萩(植松)
・ 外国語	…竹川
・ 養護	…中西
・ I C T	…低(小林), 中(萩), 高(寺本)

○指導案の形式は、原則以下の通りとする。

1. つけたい力(授業の目的)
 2. 題材(単元名)
 3. 指導について…学年目標達成のための手だてを書く
 4. 児童について…見守っていきたい児童につけたい力とそのための手だてを書く
学習についてであり、生活指導上の課題等は書く必要はない
 5. 本時の指導 (1) 本時のねらい
(2) 本時の展開
 6. 観点…手だてを書く(本時のねらい達成のための手だてが複数ある場合は、いくつ書いてもよい)
 7. 板書計画
- ※以上の内容でA42枚程度でよい
 ※藤井前教頭先生の「わらぐつの中の神様」の指導案を参考に(昨年度の指導案つづりにあります)

(5) 事後検討会

- ・全体提案授業の事後検討会の司会は授業をした学年で、記録や会場設営・用紙の準備は同学年部で行う。なかよし学級の授業の司会と記録は研修委員会で行う。
- ・分散会では、全員参加で活発に話し合いが行われたが、その話し合いを受けての全体会でも意見を出し合い、授業者の方にも応えられるためにも事前に指導案を熟読して研究授業に臨み、学んだり良かったりした点や課題となった点をできるだけ付箋に書くようにしていきたい。

(6) その他

- ・学年を中心に積極的に授業の見合いをする。また、研修委員会や他の先生方に授業公開を依頼された場合は快く引き受ける。
- ・学習環境のコーナーを設け、子どもたちに学ぶ意欲を喚起したり、学習の成果を確かめたりすることができるようにしていく。学習環境推進委員長のほうからでる計画に従い、研修委員が声掛け役になり、それぞれの学年で運営していく。
- ・夏季研修会で、研修内容に関わるテーマとその他の研修に関わるテーマについて外部講師の先生を招き研修会を行いたい。内容や講師の先生に希望があれば教えてほしい。また、人権・同和教育実践交流会(校内・小中学校合同)、学びの一体化小中学校合同部会などを行いたい。
- ・先進校や県外研修に積極的に行き、研修内容や資料を職員会議で紹介し、みんなに還元していく。ただし予算の関係があるので、県外研に行きたい人は6月末までに申し出る。
- ・助言者の湯茶は、司会する学年が用意する。

8. 研修組織

学 年 研 修	研 究 部 会
なかよし学級 矢野 植松 下田	読み部会 ○ 伊藤千 鈴木喜 福田 鈴木省 下方 西川 寺本 植松
1 学年 長谷川 小林 鈴木喜	
2 学年 伊藤千 野田 向出	書き部会 ○ 小林 向出 浦尾 萩 別所 笠田 西向 矢野
3 学年 浦尾 武内 福田 小田	
4 学年 竹本 鈴木省 萩 市川	計算部会 ○ 竹川 長谷川 野田 武内 竹本 新貝 小田 市川
5 学年 新貝 別所 下方 西川 伊藤啓	
6 学年 竹川 寺本 笠田 岩田 西向 川口	養護部会 ○ 中西
	食教育 ○石崎

9. 年間計画

月	研修主題に基く研修	学びの一体化に関する研修	人権・同和教育に関する研修	その他の研修
4	研修主題, 研修の方向性についての検討 各学年の研修計画作成	三部会	年間指導計画の検討 研修計画の作成	
5	研究授業		核になる児童を中心に据えた学級づくり計画作成	国語・算数以外の教科の公開(年間)
6	研究授業	三部会 授業公開小学校(29) (指導主事要請)	研究授業	
7	研究授業		校内実践交流会(29)	QU研修会(29)
8	自分の思いを伝え高め合う授業づくり研修会(国語)(23) 体育科研修会(午後)	小中学校合同部会(1) (指導主事要請)	保幼小中実践交流会(1) 四同研(21)	
9	研究授業		研究授業	
10	研究授業		研究授業 中学校区人権講演会()	富洲原幼稚園公開
11	研究授業	授業公開中学校(16)	研究授業 全同教大会(26,27)	富洲原保育園公開保育
12	研究授業 研究紀要の柱立て検討	三部会	研究授業	
1	研究授業 研修紀要の作成		研究授業	家庭教育講座
2		三部会 来年度の方向性検討	年間指導計画見直し 成果と課題の協議	三重大付属小公開授業 研修会参加
3	成果と課題の協議 来年度の方向性検討	ワーキング会議	校区人権協研修会 来年度の方向性検討	